

国立国会図書館



館長挨拶「信頼に応える 平成27年の新年を迎えて」

国立国会図書館と障害者サービス

学術文献録音図書の製作と提供

視覚障害者等用データの収集および送信サービス

「てんやく絵本ふれあい文庫」30年の取り組み ～てんやく絵本のこと、そして、図書館に望むこと

2015.1

No. 646

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

CONTENTS

02 信頼に応える 平成27年の新年を迎えて

04 踊獨稽古 北斎の描いた踊りの教本

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

06 特集 国立国会図書館と障害者サービス

08 学術文献録音図書の製作と提供

11 点字図書・録音図書全国総合目録と国立国会図書館サーチ

12 視覚障害者等用データの収集および送信サービス

14 障害者向け資料の紹介

16 米国議会図書館の障害者サービス部門(NLS)の視覚障害者等向けサービス

18 韓国国立中央図書館の障害者サービス

20 「てんやく絵本ふれあい文庫」30年の取り組み

～てんやく絵本のこと、そして、図書館に望むこと

28 数字で見る国立国会図書館

『国立国会図書館年報 平成25年度』から

10 館内スコープ

音訳 一音で読む学術文献を作る一

26 本屋にない本

- 「新たな世紀、新たなサービス 電子図書館へのあゆみ 日本点字図書館創立70周年記念誌」
- 「テルミ」

30 NDL NEWS

- おもな人事
- 平成26年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会
- 平成26年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会
- 中国国家図書館との第33回業務交流

32 お知らせ

- 国際政策セミナー「国会による行政統制—ドイツの『議会留保』をめぐる憲法理論と実務」
- 「国会会議録検索システム」の機能追加について
- 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム（関連事業）防災・復興に関する展示「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」
- 平成26年度の利用者アンケートの結果を公表しました
- 関西館小展示（第17回）「明日のレシピはフルコース—作りたい味を見つけよう—」
- 国際子ども図書館展示会「子どもを健やかに育てる本 2014—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」
- 子どものための絵本と音楽の会
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

信頼に答える

平成27年の新年を迎えて

国立国会図書館長 大滝 則忠



新年あけましておめでとうございます。

国立国会図書館は、平成24年8月、「私たちの使命・目標 2012-2016」を公表しました。そこでは、おおむね5年間で取り組むべき6つの重点目標として、(1)国会の活動の補佐の充実、(2)印刷出版物と電子情報の双方を含む幅広い資料・情報の収集・保存、(3)それら資料・情報の簡便な利用とアクセスの強化、(4)内外の関係機関との一層の連携、(5)社会に役立つ東日本大震災アーカイブの構築、(6)透明性が高く効率的な運営管理の推進、を挙げています。また、平成25年5月、各目標を達成するための「戦略的目標」を策定して公表しました。新年を迎え、これら各目標の達成に向けて、一層強力に取り組む決意を新たにしております。引き続き、皆様さまざまご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

日頃から、私は国立国会図書館長として、多くの方々にお会いする幸運に恵まれております。その際しばしば、多くの方々からの館の活動に対するご信頼を感じることができることは、嬉しい限

りです。今後とも、そのようにご信頼いただけることを素直に喜びながら、謙虚の心でご信頼に一層応えるべく、館の職員が一体となって弛まぬ努力を重ねてまいりたいと考える次第です。

さて、年頭に当たり、本年、重点的に取り組む課題について、所信を申し述べます。

第一に、国会の活動を補佐する役割を十全に果たすため、専門的な調査・分析と的確な情報提供を一層強化いたします。これら国会サービスは、迅速性、中立性、客観性および正確性を念頭に、依頼者の秘密厳守を旨として取り組んでおります。個々の調査のご依頼に応える一方、外国の制度・政策・立法の動向の分析・紹介を含め、国政課題についての予測調査の成果を扱う刊行物等に対するご期待もいただいておりますので、その一層の充実を図ります。さらに、国会会議録を始めとする、国会の活動から生み出される情報に国民がアクセスしやすくし、国会と国民をつなぐ役割の一端を担うことも重点課題としています。また、世界各国の議会図書館等との連携を深め、調査能

力の高度化を図るとともに、国際的な議会図書館の発展にも寄与する所存です。

第二に、国際子ども図書館をリニューアル開館いたします。国立国会図書館国際子ども図書館は、国の内外の児童書とその関連資料に関するサービスを国際的な連携の下に行う専門図書館として、平成12年、東京・上野公園にある支部上野図書館（旧帝国図書館）の建物を大規模改修して開館しました。本年6月末の新館竣工後、既存棟の保全工事を実施し、部分的に休室しながら新体制に移行します。平成27年度末には、明治期の歴史的な建築物である既存棟に中高生のための調べものの部屋等、新館に児童書研究資料室や研修室等と65万冊収納可能な書庫が整備され、既存棟と新館が一体となって、国際的に見ても最先端の国際子ども図書館の活動が新たにスタートします。

第三に、インターネット上に流通している、民間が発信する電子書籍・電子雑誌等の収集に引き続き取り組みます。このうち、無償かつDRM（技術的制限手段）がないものについては、平成25年7月から国立国会図書館法に基づく制度として収集を開始し、現在、収集データを国立国会図書館内で閲覧に供しています。一方、有償またはDRMのある電子書籍・電子雑誌等を収集するための法制度の構築に向け、課題を検証して実効性のある制度設計に資するために、本年から、関係者のご協力のもと、実証実験事業を開始できるよう準備中です。この事業実施に際しては、出版界をはじめ、広く関係者の皆様のご協力が不可欠ですので、今後とも協議を重ねながら進める所存

です。

第四に、「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」の構築事業をさらに進めていきます。発災後4年目を迎え、大震災に関する記録の散逸が急速に進むことが危惧されています。その一方、被災地での記憶の保存・伝承の気運が高まり、アーカイブやメモリアル施設等の計画が進められています。被災各県の自治体・関係諸機関との連携を一段と進めながら、国全体の取組として期待が高い「ひなぎく」のコンテンツの充実に努めます。

以上のほかにも、社会から国立国会図書館に寄せられるご期待に関連して、さまざまな課題があります。中・長期的には、図書をはじめとする我が国の貴重な文化情報資源を次世代に継承し、その活用を図る上で重要な役割を果たす「ナショナル・アーカイブ」の構築に館が寄与すべきという課題もあります。それぞれの課題について、関係機関との連携と協力を深めながら、近きより、着実に歩を進めていきたいと思う次第です。

昨年11月17日には、国立国会図書館建築委員会から、書庫増設のための関西館第2期工事実施に関し、両議院の議長を経由して、国会に対する勧告が行われました。国立国会図書館の活動にとって不可欠な事業として、今後の施設整備に全力で取り組む所存です。

重ねて、本年もよろしくお願い申し上げます。

国立国会図書館の蔵書から

踊獨稽古 北斎の描いた踊りの教本

川本 勉

踊獨稽古 葛飾北斎画編 藤間新三郎補正 江戸：雙鶴堂 鶴屋金助 文化12(1815)年刊 1冊(38丁)18.5cm×12.5cm 1899年5月19日購求 印記：「尾州名古屋 本町七丁目 書林大野屋」
<請求記号 208-146 >
*東京本館所蔵

文化年間(1804-1817)に歌舞伎役者が物売り、芸人などに扮して、清元、常磐津の曲を踊る変化舞踊が盛んになった。遊里などでは座敷芸として変化舞踊が流行し、初心者向けの踊りの独習本も刊行され評判を呼んだ。独習本の早い例には、流行の座敷芸を図解した、『繪本おどりつくし』(竹原春朝齋画 都浪閣助作 1775年刊)(写真1)や『酒宴即興 舞ひとり稽古』(三笑狂人編 1813年自序)(写真2)がある。

ここで紹介する『踊獨稽古』(1815年刊)は、先行の『舞ひとり稽古』より詳しい図解を施したもので、手足の構え方、運び方、腰のひねり方などが、コマ送りされた連続写真のように分かりやすく描かれている。序3丁裏の初編目録によると、本書には「登り夜舟」「氣やぼうすどん」「悪玉おどり」「團十郎冷水賣」の4曲を収録し、「源太」「半田稲荷」「おかめ」「道成寺ミちゆき」の4曲は後編に収録するとあるが、後編は出版されなかった。変化舞踊を得意とした市川団十郎(7世)が序(写真3)を、踊りの名手であった坂東三津五郎(3世)が叙(写真4)をそれぞれ寄せているが、これは本文でも取り上げている団十郎の「冷水賣」(写真5)、三津五郎の「悪玉おどり」(写真6)に敬意を払ったものか。

「冷水賣」は、勇み肌で粋な江戸っ子の水売りが登場する、森田座の『閨茲姿八景』(1813年)中の八変化の一つで、河原崎座の『真似三升姿八景』(1846年)でも再演され好評だった。現在では常磐津「水売り」として知られる。「悪玉おどり」は、黄表紙の『心学早染艸』(山東京伝作 北尾政美画 1790年刊)に描かれた善玉、悪玉がその始まりで、各玉の魂が人間の中に入って善人や悪人にな

るという心学の教えが根底にあった。歌舞伎舞踊では、中村座の『七枚続花の姿絵』(1811年)中で、三津五郎が願人坊主に扮したときに、「悪」と大書した丸いお面をかぶって踊り人気を博した。現在は清元「浮かれ坊主」として知られる。さらに『弥生の花浅草祭』(1832年)でも取り上げられ、軽快でコミカルな踊りとして再び庶民の間で大人気となった。こちらは現在、清元「三社祭」(通称「善玉悪玉」として知られる。

葛飾北斎による踊り手の絵は、見開き2頁に上段の右から左へ、下段の右から左の順に描かれ、彼の絵手本の代表作『北斎漫画』の画風を彷彿させる。他の独習本の絵と比較すると、踊り手の動きが生き生きとして、ダイナミックで躍動感にあふれている。図解中の「すじ」(黒い太線)は、手足の動き、運び方を示す。説明文中の口三味線やかけ声の間合い、心得、気取りなどの注記は、振付師の藤間新三郎が記したものだ。北斎の人気、評判のよさを反映してか、巻頭の扉絵を彩色刷りにした再版本(1835年刊)(写真7)も刊行された。名古屋市蓬左文庫は、出版広告や扉絵が当館本と違う2種類の後刷り本を所蔵する。なお、明治期になってからも、同書名の『踊獨稽古』(弥生園主人編 西川千代補 1891年刊)が刊行されたが、その絵は動きに勢いがなく、二番煎じで独自性が見られない。

本書は、挿絵画家としての北斎の秀逸さがよく分かるだけでなく、遊里における座敷芸の踊りの様子などがうかがえ、歌舞伎舞踊の曲と型も今日に伝えていて、踊りを学ぶ人や鑑賞する人にとって有益な資料であり続けている。

(かわもと つとむ 利用者サービス部人文課)

参考文献

- 『踊ひとり稽古』葛飾北斎画編 藤間新三郎補正 [19--] 和装 解説：服部幸雄 大鳴屋傳右衛門天保6(1835)年刊の複製
<請求記号 VA201-274 >
- 『日本庶民文化史料集成』第9巻 遊び 芸能史研究会編 三一書房 1974
<請求記号 KD431-20 >
- 『北斎の絵本挿絵』1~3 葛飾北斎画 監修解説：永田生慈 岩崎美術社 複製3冊 1987
<請求記号 KC16-E80 >



写真1 『繪本おどりつくし』下2丁裏～下3丁表
「弓引き踊り」(上段二～四)、「雀踊り」(上段一ノ手)、「いもせ踊り」(下段一ノ手～二)などを図解している。米山堂1930年刊1775年刊の複製 <請求記号 15-471>



写真2 『舞ひとり稽古』14丁裏～15丁表
「松づくし」という踊りのうち、「にわの松」「さがり松」の踊り方が描かれている。
<請求記号 182-367>



写真3 市川団十郎(三升)が寄せた序
「葛飾の癡老」とは北斎のこと。北斎の筆なるこの稽古本は、墨引により手足の伸び、かがみが分かり、師から学ばなくても踊りがうまくなる滑稽な小冊と賞賛している。



写真5 24丁裏～25丁表 「冷水賣」十六～廿二
十六では「ア」と此あし(足)をひくぬううれとひざ(膝)を一つつつべしゆうかとあし(足)をふむ也」と記され、足の動きが「すじ」(黒い太線)で示されている。



写真4 坂東三津五郎(秀佳)が寄せた叙
この稽古本は、師から学ばなくても踊りの振りが覚えらるる奇妙な小冊で、茶碗を鳴らし、燭台をたたく酔客が珍藏すべきだという。



写真6 15丁裏～16丁表 「悪玉おどり」十七～廿三
十九では「て(手)をかへしてひら(手のひら)をうへ(上)になしすじのごとくいっばいにつきいだすべし」と記され、手の動きが「すじ」(黒い太線)で示されている。



写真7 巻頭の扉絵
木版多色刷りの再版本 <請求記号 VA201-271>。花嫁姿に扮し踊る男の絵に「月影に我振直す踊かな」の句が添えられている。



特集 国立国会図書館と障害者サービス

- ・学術文献録音図書の製作と提供 p. 8
- ・(館内スコープ) 音訳 一音で読む学術文献を作る一 p. 10
- ・点字図書・録音図書全国総合目録と国立国会図書館サーチ p. 11
- ・視覚障害者等用データの収集および送信サービス p. 12
- ・障害者向け資料の紹介 p. 14

- ・米国議会図書館の障害者サービス部門 (NLS) の
視覚障害者等向けサービス p. 16
- ・韓国国立中央図書館の障害者サービス p. 18

- ・「てんやく絵本ふれあい文庫」30年の取り組み
～てんやく絵本のこと、そして、図書館に望むこと p. 20



2014年2月に日本は「障害者の権利に関する条約」の141番目(EUを含む)の締約国になりました。この条約は締約国に、障害に基づくあらゆる差別を禁止し、障害者に実質的な平等を保障することを求めています。この条約の批准に向け、2011年には障害者基本法が改正され、障害を理由とする差別等の権利侵害行為の禁止とともに、障害者が日常生活や社会生活を営む上で障壁となるような「社会的障壁」の除去を怠ることによる権利侵害の防止が規定されました。2013年に公布された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)は、これを具体化するもので、2016年4月に施行されます。社会的障壁の除去が求められるとともに、図書館に対しては、障害者サービ

スの一層の充実が求められるようになります。

国立国会図書館は、1975年に学術文献録音図書の製作を開始して以来、障害者サービスを行う図書館に対して様々な支援と協力事業を行ってきました。2011年には「視覚障害者等サービス実施計画」¹⁾(以下、実施計画)を策定し、平成25(2013)年度までの3年の間に、この計画に基づいて、視覚障害者等用資料の統合検索サービスの開始、視覚障害者等用データの収集および送信サービスの開始、国立国会図書館内における障害者サービスの充実、デジタル化資料のテキスト化に関する調査研究、国立国会図書館がウェブ上で提供するサービスのアクセシビリティの確保などの様々な施策を実施しました。

国立国会図書館と 障害者サービス



そして、現在は、平成 25 (2013) 年度までの成果をふまえ、2014 年 3 月に策定した「視覚障害者等サービス実施計画 2014-2016」² (以下、実施計画 2014-2016) に基づき、さらなる障害者サービスの充実を推し進めています。

今回の障害者サービス特集では、まず、国立国会図書館の障害者サービスに関する取り組みの中から、障害者サービスを行う図書館を支援する 3 つの事業に焦点をあて、これまでの取り組みと今後の計画について紹介します。

次に、米国議会図書館および韓国国立図書館の障害者サービスを、最後に、国内でてんやく絵本の製作・貸出しを 30 年続けている「てんやく絵本 ふれあい文庫」の活動を紹介します。

実施計画 2014-2016 では、2011 年の実施計画をさらに推し進めるほか、デジタル化資料のテキストデータを用いた視覚障害者等向け送信サービスのための実証実験等を計画しています。

国立国会図書館は、関係機関等と連携することによって、今後も日本の図書館等の障害者サービスの全体的な向上を目指していきます。この特集が国立国会図書館の取り組みと国内外の図書館等の障害者サービスに対する理解の一助になれば幸いです。

(関西館図書館協力課)

¹ http://www.ndl.go.jp/jp/service/service_plan.pdf

² http://www.ndl.go.jp/jp/service/service_plan2014-2016.pdf



はじめに

「音訳^{おんやく}」という言葉をご存じでしょうか。「音訳」とは、「音に訳す」という言葉のとおり、視覚障害その他の理由により活字などの視覚著作物を読むことが困難な方（視覚障害者等）の読書を可能とするため、図書や雑誌など視覚情報を聴覚情報（音声）に翻訳する行為です。「視覚障害者の眼の代わりをする」、「声にプリントする」という言葉で表現されるように、音訳では読み上げる者の解釈を加えず、資料の内容をできる限り忠実に音声化することが原則とされており、感情などの読み上げる者の「表現」が入る朗読とは区別されています。

障害者サービスを提供する公共図書館や点字図書館では、音訳による録音図書の製作が行われています。

国立国会図書館でも、障害者サービスを行う公共図書館や点字図書館の支援を目的として、音訳による録音図書製作を1975年から行っています。

学術文献録音図書とは

国立国会図書館は、専門性が高く、各機関で製作が難しい学術文献を録音図書の製作対象としています。製作タイトルの選定は全国の公共図書館、点字図書館等からの製作依頼に基づいて行っています。

製作を開始した1975年当初から録音図書をカセット・テープで製作していました。その後、2002年からはそれまでのアナログ録音に代わり、すべてデジタル録音図書規格の音声DAISY（Digital Accessible Information SYstem）仕様によるデジタル録音で製作し、CD-ROMに記録しています。DAISYで製作された録音図書は、章

節単位の頭出し、ページ単位や本文と注の間の移動が容易であること、カセット・テープでは1冊10巻に相当する録音図書が1枚のCD-ROMに収まるなど多くの長所を持っています。



学術文献録音図書（テープとDAISY形式で製作されたCD-ROM）

製作を開始した1975年から2014年3月末までの間に、国立国会図書館はカセット・テープで2,112冊分、音声DAISYで857冊分の学術文献録音図書を製作しました。

分野としては、前述のように学術文献を対象としているため、哲学、歴史、社会科学、自然科学が多く、また自然科学分野では、特に東洋医学などの医学関係のものが、自然科学分野の8割以上、録音図書全体でも約2割を占めています。

録音図書の製作

DAISY図書の製作作業には、製作タイトルの選定、資料の事前調査、音訳方針およびDAISY編集方針の策定、音訳（録音）、DAISY編集があります（10ページ参照）。音訳は、視覚情報を忠実に音声として再現することが求められるため、音訳前の事前調査が重要です。漢字等の読みはすべて調べておかなければなりません。資料に掲載された図や写真、イラストなどの視覚情報も、文脈に応じた説明を音声情報として伝えなくてはなりませんので、その説明文を用意する必要があります。国立国会図書館が製作の



対象とする資料は、専門性の高い学術文献であるため、読みの調査や図・写真などに対する文脈に応じた説明の原稿を作成するために、その資料における専門分野に対する理解が調査者には求められます。調査に時間のかかる資料が多いのですが、学術活動で利用される文献や医療活動で使用される医学書は、正確な音訳が求められるため、入念な調査が必要です。

なお、録音図書の作成も著作権法で言うところの「複製」にあたるため、以前は国立国会図書館で録音図書を製作するためには著作権者の許諾を得るという著作権処理が必要でした。しかし、2009年の著作権法の改正で、視覚障害者等のための録音図書の製作について著作権者の許諾を得る必要がない機関に国立国会図書館が追加され、現在は著作権処理の必要がなくなりました。

カセット・テープで製作していた時代には、国立国会図書館職員が館内において音訳を行っていた時期もありましたが、現在は、製作作業の大部分を外部に委託しています。

また、磁気テープの寿命は短く、過去に製作した録音図書テープも破損したり、切れやすくなるなど、劣化がすでに進んでいます。音声を将来にわたり長く残していくため、また利用者の利便性の向上のために録音図書テープのデジタル化も検討しています。

学術文献録音図書の提供

国立国会図書館が製作した学術文献録音図書（テープ及びDAISY）は、国立国会図書館における来館利用のほか、貸出承認館として登録されている全国の公共図書館、大学図書館、点字図書館等を通して借り受け、その図書館内ある

いは自宅等に持ち帰ってご利用いただくことができます。また、音声DAISYについては、2014年1月からは視覚障害者等用データの送信サービスによって、データをインターネット経由で送信しています（詳細は12～13ページをご覧ください）。

おわりに

近年、公共図書館や点字図書館では、視覚障害者だけではなく、発達障害など様々な障害のある方に有用とされるマルチメディアDAISY¹の製作が試みられようになっています。

また、DAISYのアクセシビリティ機能を包含した電子書籍フォーマットであるEPUB 3の様子が2011年に正式に公開されました。EPUB 3が備えるアクセシビリティ機能を生かした電子書籍では、文字の大きさ、フォント、色を変更したり、合成音声で読み上げるなどにより、それぞれの障害の状況に合わせて読みやすい方式で読書を行うことが可能です。アクセシビリティに配慮された形で電子書籍が製作されるようになることで、視覚障害者等が出版されたそのままの形で読書を楽しむことができるものが増えてくるかもしれません。

こうした技術進展の動向にあわせて、より多くの障害者の方に使っていただける録音図書の製作を今後も進めていきます。

¹ マルチメディアDAISYは音声と本文テキストデータ等を持つDAISY（15ページ参照）。学術文献録音図書は、音声DAISY（本文は音声データのみ）で製作されている。



音訳 一音で読む学術文献を作る一

「音訳」(おんやく)。それは、音に訳す、つまり視覚情報を聴覚情報に変換すること。音訳技術は、8ページで紹介されている「学術文献録音図書」の製作には欠かせない技術です。このページでは、そんな音訳技術の一部をご紹介します。

学術文献を録音するにあたって、最も労力がかかる作業は読みの調査です。地名や人名などの固有名詞、専門用語、数式、古文、漢文、外国語……時にはヘブライ語やパーリ語、サンスクリット語まで！学術文献は多種多様の情報が含まれ、それらが正しく伝わるよう読まなければなりません。こういう数式や、

$$\left[\lambda - Z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\lambda}{n}}, \quad \lambda + Z_{\alpha/2} \sqrt{\frac{\lambda}{n}} \right]$$

こういう漢文を正確に読む必要があるのです。



また、学術文献録音図書の音訳では、文字情報でない図表等の説明も大切な作業です。著者がその図表等で伝えたいことを理解し、適切な個所で説明します。



上の写真は、『鍼灸阿是要穴 二』の音訳原稿です。漢字の読み、単語の意味、図の説明文言までこのように詳細に書き込みます。

調査が終わり、実際に録音する際は、聞き取りやすい発音や抑揚で、適切な間をとり、口中音などの雑音にも気をつけて録音します。録音図書を利用する方は2～3倍速で聞く場合が多いので、再生速度を上げて聞き取れるということも、録音図書の大切な要素です。録音完了後には、DAISY図書として編集する作業や、校正の作業が待っています。

録音図書の製作には、総録音時間の数倍から十数倍の時間がかかるといわれています。このような手間暇をかけて製作された学術文献録音図書は、完成後、全国の図書館や点字図書館を經由した貸出サービスや、視覚障害者等用データ送信サービス等を通じて利用者に届けられます。

(図書館協力課障害者図書館協力係 一升二合)



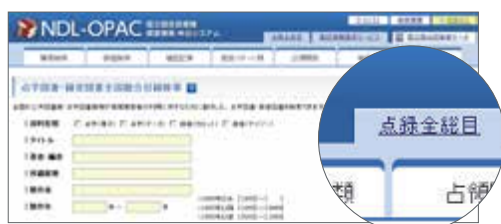
点字図書・録音図書全国総合目録と 国立国会図書館サーチ

障害者向け資料は製作に時間がかかるものが多いため、1つの施設で製作できる資料の点数は限られています。限られた貴重な障害者向け資料を最大限に活用し、その資料を必要とする方にご利用いただくため、国立国会図書館は、国内の公共図書館、点字図書館等で製作された障害者向け資料を検索できるサービスを提供しています。

点字図書・録音図書全国総合目録の編纂

障害者向け資料の検索を支援する国立国会図書館のサービスは、1982年の点字図書・録音図書全国総合目録（以下、点録全総目）の提供から始まりました。点録全総目は、国立国会図書館製作の学術文献録音図書（8ページ参照）と、全国の公共図書館や点字図書館等で製作された点字図書・録音図書の所蔵情報を調べることができる目録です。館種を越えた全国的な図書館間相互貸借を支援するとともに、同じ資料の重複製作を防ぐことによる製作資源の有効活用を目的としています。

現在は国立国会図書館の所蔵目録であるNDL-OPACを構成する1つのデータベースとして提供しています。1982年に刊行した最初の目録（冊子体）の収録点数は、国立国会図書館を含む50館が所蔵する2,238点でしたが、現在では、239館が所蔵する点字冊子約16万件、点字データ約5,800件、録音カセット約22万件、音声DAISY約13万件を収録しています。



NDL-OPAC <https://ndlopac.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチの障害者向け資料検索の提供

現在、日本では点録全総目の他に、サピエ図書館（13ページ参照）により大規模な視覚障害者等用資料の検索サービスが提供されています。またNDL-OPAC内でも、出版社等により刊行された障害者向け資料は、一般の図書などとして収録されています。このため、これまでには必要な資料にたどり着くまでに、複数の検索サービスやデータベースを利用しなければならなかったこともありました。これらを包括的に検索できるよう開発され、2012年1月に公開したのが「国立国会図書館サーチ 障害者向け資料検索」です。



国立国会図書館サーチ(障害者向け資料検索)
<http://iss.ndl.go.jp/#search-handicapped>

2014年1月からは、資料の検索だけでなく、視覚障害者等用データの一部について、ダウンロード等の利用もできるようになりました（12ページ参照）。

この検索サービスによって、障害者向け資料が広く活用されることを願っています。

国立国会図書館サーチの障害者向け資料検索で
検索できるもの（2014年10月末現在、約72万件）

- ・点字図書・録音図書全国総合目録
- ・サピエ図書館
- ・国立国会図書館が所蔵する点字資料、大活字本、拡大写本、納本された録音図書（テープ・DAISY）等
- ・視覚障害者等用データ送信サービスで提供されるデータ（12ページ参照）

視覚障害者等用データの収集および送信サービス

国立国会図書館は、全国の公共図書館等で製作した視覚障害者等用データを収集し、それらを提供するサービス¹を行っています。視覚障害者等用データとは、DAISY形式の録音図書や点字データなど、視覚障害その他の理由により活字などの視覚著作物を読むことが困難な方（視覚障害者等）のためのデータです。インターネットを通じて自宅で、あるいはお近くの図書館等を通じて利用することができます。視覚障害のある方に限らず、肢体に障害があるためページをめくれない方やディスレクシアの方など、視覚著作物をそのままの方式では利用することが困難な方も利用することができます。

2009年の著作権法改正（2010年1月施行）により、それまで点字図書館等に限り認められていた、著作権者の許諾を得ずに、視覚障害者等のための音訳等を行うこと、そしてそのデータをインターネット経由で送信することが、国立国会図書館や公共図書館でも行えることになりました。これをうけ、全国で製作されたデータをより多くの人に利用していただくために、2011年7月に策定した「視覚障害者等サービス実施計画」で送信サービスを行うことを発表し、関係団体等と検討を重ねて、2014年1月にこのサービスをスタートしました。

視覚障害者等用データの収集

国立国会図書館は、現在、公共図書館が製作した音声DAISY²と点字データを収集しています。公共図書館からの収集が一段落したら、大学図書館など他の館種の図書館等からの収集や、テキストDAISY³、マルチメディアDAISY⁴など収集するデータ種の拡大も検討する予定です。

視覚障害者等用データの送信サービス

収集した公共図書館のデータと国立国会図書館が製作した学術文献の音声DAISY（8ページ参照）・点字データは国立国会図書館サーチの障害者向け資料検索⁵から利用することができます。音声DAISYはストリーミング再生とダウンロードしての利用、また点字データはダウンロードして点字ディスプレイ⁶等での利用がそれぞれ可能です。



国立国会図書館サーチの利用画面

利用できる点数は、2014年10月末現在、音声DAISYが2,151点、点字データが38点の計2,189点です。内訳は公共図書館が製作した音声DAISY 1,242点、点字データ 25点と、国立国会図書館が製作した音声DAISY 909点、点字データ 13点です。分野別の点数は以下のとおりです。

	音声 DAISY	点字データ
0 総記	176 点	13 点
1 哲学	290 点	3 点
2 歴史	322 点	1 点
3 社会科学	331 点	0 点
4 自然科学	383 点	0 点
5 技術	35 点	2 点
6 産業	20 点	2 点
7 芸術	79 点	0 点
8 言語	30 点	2 点
9 文学	485 点	15 点

日本十進分類法による分野別提供データ数





個人の方は、視覚障害者等、つまり、書籍などの視覚著作物をそのままの方式では利用することが困難な方として国立国会図書館で利用者登録をしていただくと、自宅からインターネットを通じてこのサービスを利用できます。ただし、現在のところ、登録するためには東京本館か関西館に来館していただく必要があります。このため、来館せずに登録できる方法を早晩実現できるよう検討しているところです。

また、国立国会図書館で利用者登録する以外に、このサービスを活用している公共図書館、大学図書館、学校図書館、点字図書館等を通じて利用することもできます。それぞれの機関で提供しているサービスは異なりますが、図書館等内で用意された端末で利用することや、図書館等がCDやUSBなどにダウンロードし、それを自宅に郵送してもらうといったことが可能です。

おわりに

900点弱のデータでスタートしたこのサービスも、公共図書館からのデータ提供により1年弱でデータが2倍以上になりました。今後も引き続きデータを収集し、提供できる点数を増やしていくことを計画しています。

このサービスには、利用者登録方法や検索画面のアクセシビリティ、データ収集の方法など課題もたくさんあります。課題を解消し、より多くのデータをより多くの必要とする方に届けられるよう、サービスを充実させていく所存です。ぜひ、たくさんの方にこのサービスを知り、そして使っていただきたいと願ってやみません。

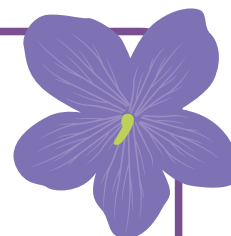
- 1 視覚障害者等用データ送信サービス（障害のある方へ）
http://www.ndl.go.jp/jp/service/support_send.html
視覚障害者等用データの収集および送信サービス（図書館員の方へ）
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/supportvisual/supportvisual-10.html>
- 2 DAISY（Digital Accessible Information System）フォーマットの音声データ
- 3 DAISYフォーマットのテキストデータ
- 4 DAISYフォーマットの、音声とテキスト等を組み合わせたデータ
- 5 国立国会図書館サーチ（障害者向け資料検索）<http://iss.ndl.go.jp/#search-handicapped>
- 6 ピンが上下に動いて物理的に点字を表示する機器



サピエ図書館でも利用できます！

サピエ図書館は、視覚障害者を始め、目で文字を読むことが困難な方々のための日本最大規模の電子図書館で、日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営しています。視覚障害者等用データ送信サービスのデータは、このサピエ図書館でも検索・利用することができます。

<https://library.sapie.or.jp/>



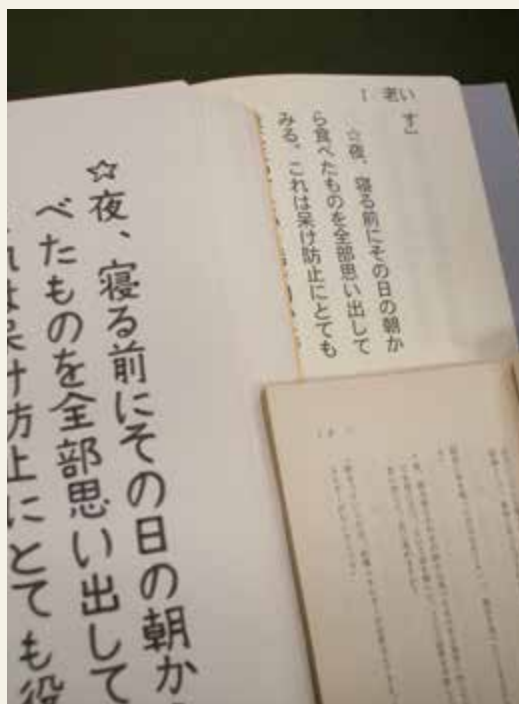
ここでは、様々な障害者向け資料を、写真付きで紹介します。

障害者向け資料の紹介

大活字本・拡大写本

大活字本・拡大写本は、弱視の方が読みやすいよう、文字を拡大した資料です。通常の出版物より大きな活字で出版社から出版された資料を大活字本、読者一人一人のニーズに合わせた形でボランティア等が文字を拡大して作成した資料を拡大写本と呼んでいます。これらの資料は、加齢で文字を読みづらくなった方にも喜ばれます。

(写真下部右：一般書籍、写真上部右：大活字本、写真左：拡大写本)



点字資料

点字資料は、点字や、絵や図表を点で表した点図を使用した資料です。点字、点図のみが使用された資料や、晴眼者もいっしょに楽しめるように点字といっしょに活字（墨字）が印刷され、絵も触って分かるように盛り上げた「点字つき絵本」(24ページ参照)などもあります。

録音図書

録音図書とは、視覚障害等のある人が読めるよう、音訳された資料です(8ページ参照)。国立国会図書館では、カセットテープやデジタル録音図書形式であるDAISY形式によって製作されたCD-ROMを所蔵しています。録音図書は、ディスクシアなどで活字を読むことが難しい方にも、有効に活用いただけます。





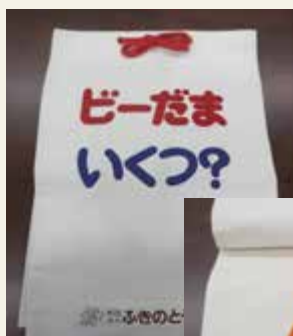
マルチメディア DAISY 図書

マルチメディア DAISY は、音声データの他に、本文のテキストや図のデータなどを持ち、それらを同期して表示させることのできる資料です。テキストや図のデータを持っているので、弱視の方は拡大して読むことができるほか、同期している箇所をハイライトすることが可能で、ディスプレイの方などの読書にも有効であるといわれています。



LL ブック

「LL」とは、スウェーデン語の Lättläst の略語で、「やさしく読める」という意味です。やさしい語彙や文法を使う、写真や図を多用する、単純な構成にするなどの工夫がされており、知的障害などにより言語理解に困難がある方や、日本語を学習中の方にも読みやすくなっています。最近では、読みやすい LL 漫画も研究されています。



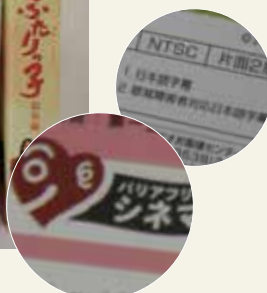
(ふきのとう文庫製作 布の絵本)

布の絵本

布の絵本は、台紙が布で出来ていて、そこに様々な布で作った絵が綴じ付けられています。ファスナーやボタン、スナップ、ひもなど多様な材料を使った絵本もあります。布の絵本には、たくさんの使い道があります。視覚障害のある子どもが手で触って読んだり、手の不自由な子どもがリハビリを兼ねて遊んだり、知的障害のある子どもが楽しく勉強するための教材になったりします。

バリアフリー DVD

ここ数年、市販されている DVD に聴覚障害対応字幕や視覚障害者向け音声ガイドの入ったものが増えてきました。聴覚障害対応字幕には、「風の音」などの音を解説した字幕や、話者を特定する字幕（話者の口元が見えない場合、誰が話しているかわからないため）が入っています。視覚障害者向け音声ガイドには、「〇〇株式会社の看板」「(場面が切り替わったタイミングで) 夕方、〇〇の家」などの通常の音声だけでは伝わらない視覚情報を伝える音声が入っています。



米国議会図書館の障害者サービス部門（NLS）の視覚障害者等向けサービス

筆者は、2014年3月まで、障害者サービスを行う図書館を支援する部署である関西館図書館協力課に在籍し、国立国会図書館の障害者サービスの今後のあるべき姿を考える立場にいました。このため、海外の国立図書館が提供する障害者サービスの動向に関心があったところ、2014年3月に米国議会図書館（以下、議会図書館）の障害者サービス部門、視覚障害者および身体障害者のための全国図書館サービス（National Library Service for the Blind and Physically Handicapped 以下、NLS）を訪問する機会を得ました。本稿では、この訪問記録をもとに、NLSのサービスの沿革と現在のサービスの内容について紹介します。

NLSの沿革

1931年に、全米の視覚障害者が利用することのできる図書を提供することを議会図書館の任務として定めた法律が成立したことを受けて、NLSが設立されました。この年、NLSは、全米に視覚障害者サービスを提供するための図書館ネットワークを組織しました。19館が加入したそうです。1934年には点字図書に加え、録音図書の提供を開始しています。

NLSの図書館ネットワークは発展を続け、1970年代には、ワイオミング州とノースダコタ州を除くすべての州に広がりました。1995年にはノースダコタ州の図書館が参加

し、現在ではワイオミング州以外のすべての州のほか、ワシントンDC、プエルトリコ、バージン諸島の図書館も参加しています。この図書館ネットワークを通じて、視覚障害者等はNLSが製作する点字図書や録音図書を利用することや、NLSから供給を受けた再生機器の貸出しを受けることができるようになりますので、現時点ではほぼ米国全土がNLSの視覚障害者等サービスの対象となっているといえます。

録音図書製作の変遷

NLSは最初、SP盤で録音図書を製作していました。それが1950年代にはLP盤になり、その後はカセットテープ（写真1）になりました。このカセット・テープは、一般用のものに比べて再生速度を半分にしており、このため、通常の90分のカセット・テープに3時間分の録音が可能です。



写真1 カセット・テープ

NLSは、このカセット・テープを長く使用していましたが、1990年代末から2005年にかけて新たな媒体となるデジタルメディア



を調査しました。DAT(Digital Audio Tape)、CD-ROM、HDD、フラッシュメモリが調査対象となり、最終的にUSBを用いたフラッシュメモリであるUSBフラッシュドライブ(USBメモリ)(写真2)が採用されることになりました。



写真2 USBフラッシュドライブ(USBメモリ)

下の写真3はUSBフラッシュドライブ専用の再生機器です。NLSが製作する録音図書は暗号化されているため、この専用再生機器以外の機器では再生できないようになっています。29時間の連続再生ができ、15段階の速度調整も可能になっています。1台160ドルとのことです。



写真3 専用再生機器

NLSは、この専用再生機器を買い取り、図書館ネットワークを通じて利用者に無期限で貸し出すことで、障害者サービスを展開しています。貸し出した機器の台数は、全米で50万台に上ります。

録音図書の提供

NLSは、毎年2,000タイトル分の録音図書を製作し、それを複製したUSBフラッシュドライブを140万個製作して提供しています。2009年以来15,000万タイトル分を製作し、USBフラッシュドライブ550万個を貸し出しているそうです。

また、2004年度以降は、BARD(Braille and Audio Reading Download)というデータベース¹を構築し、点字図書や録音図書のデータのダウンロードサービスを行っているほか、2013年9月からは、iPhone用のBARD Mobile²のサービスを開始しています。ただ、BARDを利用しているのは、まだNLS利用者全体の15%にとどまるとのことでした。

おわりに

この訪問により、議会図書館における障害者サービスの歴史の長さ、そのスケールの大きさを実感することができました。最後に、お忙しい中、来訪の対応をしてくださったNLSの方々に心から感謝申し上げます。

みなみ りょういち
(南 亮一 関西館文献提供課長)

- <https://nlsbard.loc.gov/nlsbardprod/login/mainpage/NLS>
- <https://itunes.apple.com/jp/app/bard-mobile/id705229586?mt=8> Android版は開発中とのことであった。



韓国国立中央図書館の障害者サービス

「図書館は、すべての国民が身体的、地域的、経済的、社会的条件に関係なく、公平な知識情報サービスの提供を受けるために必要なあらゆる措置を講じなければならない」。2006年に、韓国の図書館法が全面改正された際に新設された規定です。この規定によって、障害者の情報へのアクセスの改善が図書館の責務として法的に明示されることになりました。以降、韓国の国立図書館である国立中央図書館で組織整備が進められ、2012年には、障害者サービスを主体的に推し進めるための「国立障害者図書館」を、国立中央図書館の組織の一部として設置しています。

国立中央図書館は、来館する障害のある利用者に対するサービスだけでなく、障害者サービスに関する国家施策の策定、各種基準の制定、障害者のための資料の収集・製作・製作支援・提供や、専門職員の教育や関連機関との協力などを行っています。本稿では、その中から、障害者向け資料の製作、来館サービス、国内の図書館に対する支援に分けて、国立中央図書館の近年の取り組みを紹介いたします。

障害者向け資料の製作

国立中央図書館では、障害者向け資料の製作を2003年から行っています。しかし、2009年11月に策定された国家レベルの総合対策「障害者図書館サービス先進化方策」において、対応が不十分であるとの現状認識が示され、特に対策が進められるようになりま

した。その結果、2010年から2013年までの4年間で、DAISY資料9,184点、電子点字楽譜2,040点、手話映像図書資料941点など、数多くの障害者向け資料が製作されています。

2009年3月の図書館法改正で、障害者のための資料製作に必要な場合、国立中央図書館は、出版者などに対して、txt、doc、hwpなどのデジタルファイル形態での納本を要請できるようになりました。提出されたデジタルファイルを基に、表、写真に対する解説を追加するなどの編集を加えて、点字データや録音図書などが作成されます。2013年には、44の出版社から、250タイトルが納本され、障害者向け資料の製作に利用されています。

障害者のための閲覧室「障害者情報ヌリト」

2009年4月、国立中央図書館は、障害者のための閲覧室「障害者情報ヌリト」(ヌリトは韓国語で「享受する場」を意味する)を設置しました。

障害者がアクセスしやすいよう、国立中央図書館本館の1階に設置されたこの閲覧室には、対面朗読室、映像室などの施設や、拡大読書器、点字プリンタといった視覚・肢体・聴覚障害者のための支援機器51種類が整備されています。

また、代替資料や機器の提供のみでなく、個々の障害の状況に合わせてサービスを受





けることができます。その内容は、専門的技術を持ったボランティアスタッフが行う活字資料の対面朗読、映像資料の画面解説、文書作成支援など多岐にわたり、2013年には、年間1,233回（3,699時間）の利用がありました。



対面朗読室

国内の図書館に対する支援

充実した資料とサービスを提供する国立中央図書館ですが、すべての障害者が来館できるわけではありません。そのため、同館は、国内の図書館に対する支援にも取り組んでいます。

例えば、上述の「ヌリト」をモデルとした閲覧室を全国に普及させることを目的として、公共図書館に対し、障害者のための閲覧環境を整備するための費用の半分を国費で支援する補助事業を実施しています。2009年から2013年の5年間に、72館に対して、総額6億3000万ウォンの補助がなされ、各公共図書館で支援機器の導入や、各種イベントの運営のために用いられました。

また、障害者サービスに関する調査研究を積極的に行っており、その成果を受けて障害者サービスに関する様々なガイドラインを策

定し、国内の図書館に提示しています。例えば、2014年2月には、「発達障害者が利用しやすい資料開発」に関する調査研究を基に、発達障害者向け資料の製作のガイドラインを策定しています。

その他、同館で試行した手話による聴覚障害者向け読書イベントの全国展開に着手するなど、イベント開発・普及にも力を注いでいます。



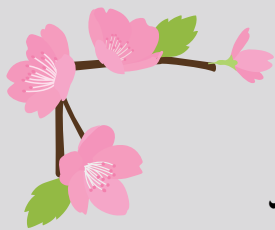
研究成果物の例

おわりに

2014年1月、国立中央図書館は、中・長期発展計画「国立中央図書館2014-2018」を発表しました。この計画では、全国の図書館が所蔵する障害者のための資料の共有に向けたインフラの構築や、支援機器導入のための補助事業の拡充が掲げられており、急速なテンポで障害者サービスのための全国的な体制を整備しようとしています。今後どのような成果が挙げられ、そのなかで私たちにとって参考になることはないか、引き続き、韓国の障害者サービスの展開から目を離せません。

ふくやま じゅんぞう
(福山 潤三 関西館アジア情報課)





「てんやく絵本ふれあい文庫」30年の取り組み 〜てんやく絵本のこと、そして、図書館に望むこと

てんやく絵本ふれあい文庫
代表 岩田 美津子

国立国会図書館は毎年、日本図書館協会と共催で障害者サービス担当職員向け講座を開催しています。平成26年度の講座の中で、講師としててんやく絵本ふれあい文庫代表の岩田美津子氏をお迎えしました。

2014年4月に30周年を迎えたてんやく絵本ふれあい文庫は、視覚障害者や視覚障害者のいる家族などに、ボランティアの方が製作したてんやく絵本の貸出しを行ってきました。てんやく絵本の所蔵は現在約9,000冊で、年間貸出数も約6,000冊にのぼっています。今回は、岩田氏にこの30年の取り組みと、この活動を行っている立場から図書館に伝えたいメッセージをお話いただきました。

※この講演は2014年11月18日に行われたものです。

(編集 関西館図書館協力課)

てんやく絵本とは

市販の絵本に塩ビシートの透明な点字シートを貼る、これがてんやく絵本の特徴です。本文を点訳した透明なシートを文字の部分に貼り、絵には透明なシートを絵の形に切って貼ります。絵の形に貼っただけでは絵の様子がわかりにくいもの、または絵の形に貼れないものについては説明文を書き添えます。てんやく絵本は、視覚障害者のために透明なシートを貼っていますが、見えない人専用の絵本ではありません。見える人が楽しんでいる市販の絵本をそのまま見えない人も楽しめる、言い換えれば、見える人と見えない人が一緒に楽しめる絵本がてんやく絵本なのです。

てんやく絵本の製作で心がけていることは？

私たちが大事にしていることは、作者の意図を壊さないということです。読み手によって感じるものが異なるため、作者の意図を伝えることは非常に難しいのです。ですから、見たものを言葉による説明に変える時は、そっけないくらいシンプルな表現にし、可能な限り、形が分

岩田 美津子 (いわた みつこ)

特定非営利活動法人てんやく絵本ふれあい文庫 代表

1984年4月に「点訳絵本の会 岩田文庫」を創設して以降、文庫活動を通じて30年にわたり、てんやく絵本の製作・貸出しなどを続ける。

著書に『点訳絵本の作り方』(増補改訂第3版 せせらぎ出版、2005年)、『見えないお母さん絵本を読む』(せせらぎ出版、1992年)、『岩田美津子の絵本探検』(JULA出版局、1997年)など。また、1992年2月から2000年12月までJBS日本福祉放送において絵本番組「岩田美津子の絵本の玉手箱」を制作・放送。国際児童図書評議会「IBBY朝日国際児童図書普及賞」(1998年4月)などを受賞。



かりやすいように貼るようになります。私たちは作者の意図を伝える努力をする以前に、作者の意図を壊さない努力を心がけています。

見える人が見たときに、違和感のないシートの貼り方をしなくてはなりません。透明とはいえ、見える人にとってシートはないに越したことはありませんから、貼るシートは必要最低限にします。絵にその絵の形のシートを貼る時、どんどん重ね貼りすると視覚障害のある私たちにとってはわかりやすくて、重ね貼りの仕方によっては、見づらい絵になってしまいます。絵の形に貼るほうがよいのか、説明文にするほうがよいのか。視覚障害のある私たちにわかりやすくて、それが見える人にとって見づらいものになるのであれば、そこは工夫をしなければなりません。それを踏まえながらてんやく絵本を作り、見える人と見えない人が一緒に楽しめるようにしています。

てんやく絵本の利用者

てんやく絵本の利用者の半分強は、子育て中の視覚障害者です。その他、視覚障害児がいる家庭でも利用されています。視覚障害児がいる家庭といっても、視覚障害児の他に兄弟がいる家庭もあります。てんやく絵本なら親が読んであげるときに、見える子と見えない子が一緒に楽しめるのです。点字を練習している中途失明者の利用も多いほか、絵本が好きな大人の視覚障害者もいます。施設関係では、盲学校や点字図書館、公共図書館、その他の視覚障害のある大人や子どもが在籍あるいは出入りする施設に貸し出しています。視覚障害児が在籍する小学校にも30冊から50冊の貸出しをしています。一般の小学校に視覚障害児がいる場合、対象となる利用者はただ一人であることが多いですが、見えない子にも見える子と同じように、選



(元の絵本)
『しょうぼうしのトトフ』
リオネル・コ克蘭 作
石津ちひろ 訳 ゴブリン書房 2006

製作・所蔵 てんやく絵本ふれあい文庫

てんやく絵本

文字を透明な塩化ビニールのシートに点訳し、絵の形も同じシートで切り抜いて、市販された絵本に貼った手作りの絵本。



ぶ楽しさを味わってほしいので、対象となる利用者が一人の場合でも30冊から50冊を貸し出しています。

てんやく絵本の誕生

私自身は先天性の視覚障害者ですから、子どもが生まれたときも絵本を読んでやりたいという気持ちもなかったのですが、子どもが1歳をすぎて間もない頃、おもちゃを与える感覚で絵本を子どもに与えたときに、子どもがその絵本を私のところに持ってきて、私の手を取って絵本を触らせて「読んで」という仕草をするわけです。子どもにとって絵本は読んでほしいものであるということそのとき初めて学びました。しかし、私自身が情報を持っていなかったこともあって、周りを見渡しても何もないのです。そこで、普通の絵本にネームテープと呼ばれていたカラーのテープを貼るなどしましたが、うまくいきません。

ボランティアによって作られている布の絵本やさわる絵本を利用したこともありましたが、親が見えないために、成長して一般社会



で生きていく子どもが特別な絵本しか知らないのはよくないと思いました。目が見える子どものためにどのような環境を整えていくべきかと考えたとき、近所の子どもたちが読んでもらっているような絵本を、私も普通の形で読んでやりたいと思いました。この透明なシートを貼るところにたどり着くのに約3年かかりましたが、言い続けていると、かならず本気で一緒に考えてくれる仲間も出てきます。最終的に透明なシートを見つけてきて、これなら使えるということが分かり、ようやくてんやく絵本の元になる形ができたのです。

その後、ボランティアの手を借りて、何冊も点訳してもらいました。親子でてんやく絵本を楽しむなかで、私自身が学んだことは、絵本は子どもにとって読んでもらいたいものである、お母さんの膝に乗かって、お母さんの声で読んでもらうことを楽しんでいるということです。当時はてんやく絵本が何冊もないため、同じ絵本を何回も読んでと持ってきます。私は飽きてしまい、もういいでしょという感じになるのですが、それでも持ってきて、読んで読んでと繰り返します。その姿を見て、膝に乗かって読んでもらい、一緒に笑ったり驚いたりすることが、子どもにとってどんなにうれしいことかを知りました。

てんやく絵本の貸し出し-文庫の創設-

3年くらい経ち、てんやく絵本が100冊くらいたまった時、友人から「他の見えない人たちにも貸してあげたらどう？」と言われました。その一言を言われて初めて、「他の見えないお母さんたちはどうしているのだろう」と考えました。絵本は読んでやれないものと諦めている人も多いのではないかと。ほかの人たちに使ってもらうことが、これまで助けてくれたボランティアへの本当の意味での恩返しになると思い、軽く考えて、貸出しに踏み切りました。そして、1984年に子どもの本棚に並んでいる絵本の貸出しを始めたのです。これがふれあい文庫の前身である岩田文庫です。活動を始めた時からの私の最大の目的は、見えない人たちに絵本の楽しさ、素晴らしさを味わってほしいということと、絵本を必要とする見えない人たちがいつでもどこでも、見える人と同じように絵本を楽しめる環境が整ってほしいということです。この想いをずっと抱きながら30年間続けてきました。

見えない人たちにてんやく絵本を利用してもらうためには、郵送で貸出しを行わなければなりません。当時の郵政省に問い合わせたところ、てんやく絵本は見える人も楽しめるため、盲人用郵便物にはならないという回答でした。見え

〇てんやく絵本ふれあい文庫30年のあゆみ

- 1984年4月 「点訳絵本の会 岩田文庫」を岩田美津子氏の自宅に創設。
- 1987年5月 『点訳絵本のつくり方』第1版を自費出版。
- 1987年7月 郵政省に働きかけ、てんやく絵本の郵送料無料化を実現。
- 1991年4月 岩田文庫の活動拠点を大阪市西区に移し、名称を「てんやく絵本 ふれあい文庫」と改める。
- 1996年10月 フルカラー点字つき絵本『チヨキチヨキチヨッキン』を出版。
- 2002年4月 「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足。
- 2005年12月 現在地（大阪市西区江戸堀）に活動拠点を移す。
- 2012年1月 てんやく絵本ふれあい文庫のNPO法人格を取得。
- 2014年4月 創設30周年を迎える。





る人と見えない人が一緒に楽しめるものを作り、見えない人に提供していくことが私たちの目的です。その意味を理解してもらうためには、実績を積み重ねていきました。その後も郵政省に行って直接話をしたり、様々なことをしているうちに、その事に興味を寄せてくれる人も増え、新聞でも取り上げられたりして、3年かかりましたが、1987年7月からてんやく絵本は日本どこへでも無料で郵送できるようになりました。これが実現しなかったら、ふれあい文庫は活動の維持が難しかったらと思うています。

ふれあい文庫は常勤の職員が1人もおらず、ボランティアだけで運営しています。現在約130名がボランティアで活動していて、ローテーションを組んで、週4日の活動日に、だいたい1日7、8人が集まり、貸出し、本修理、貸出返却の管理などの図書館業務を40人で手分けしてやっています。年間の貸出数はだいたい6,000冊くらいです。残りの80名～90名はてんやく絵本作りをしていて、年間300～350冊の製作をしています。ありがたいことに最初に文庫を始めた1984年から、年間の製作数はほとんど変わっていません。

フルカラーの点字つき絵本

『チョキチョキチョッキン』の誕生

見えない人たちが絵本を楽しみたいと思うと、このふれあい文庫を利用するしかありませんでした。視覚障害のある私たちも図書館に自分たちが触って楽しめるものがあってほしい。書店で購入できるものがあってほしい。透明な樹脂インクを使って点字を盛り上げる方法がこの頃すでに技術開発されていました。それで絵の形を盛り上げることはできないのかと思いつけているところに、透明な樹脂インクで点



『チョキチョキチョッキン』
ひぐちみちこ、いわたまつこ作
てんやく絵本ふれあい文庫 1996

カニの絵の形に盛り上がっているだけでなく、砂浜も細かいドットの印刷で表現されている。

字を盛り上げる印刷機を備えている業者と出会いました。「点字はできるけど、絵本ねえ」と首をかしげられましたが、私たちがいかに必要としているかを説明した結果、やってもらえることになりました。約2年かかりましたが、こうして1996年にできたのが日本で最初のフルカラーの点字つき絵本である『チョキチョキチョッキン』です。

翻訳もので単色の点字つき絵本は1970年代に偕成社からすでに出ていました。見える子と見えない子が一緒に楽しめる絵本という点では、てんやく絵本と同じスタンスでしたが、私は、見える子も楽しめるフルカラーの点字つき絵本を作りたかったのです。これに私たちが込めた思いは、「見えない人たちも絵本を必要としている。このように工夫してくれれば見えない人たちも楽しめる」ということでした。それを世の中に伝えて、子どもの本の関係者、特に出版関係者に興味を持ってもらうきっかけにしたかったのです。『チョキチョキチョッキン』は注目されて、8,000冊から9,000冊売れました。絵本でそれだけ売れたらベストセラーと言ってもよいでしょう。



点字つき絵本の出版と普及を考える会

その後、自由国民社、岩崎書店、福音館書店、小学館から点字つき絵本が少しずつ出版され始めましたが、そこから広がらないのです。そこで、2002年4月に「点字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足させました。会の基本的な理念は、見えない人のために作るのではなく、見える人と見えない人みんなが楽しめる絵本を作り、それを出版物として世の中に送り出してたくさんの人々に買ってもらうということです。主なメンバーは編集者、印刷業者、研究者、書店員、盲学校の司書、それから、会の事務局を務めているふれあい文庫です。

この会ができてから、これまでに復刊も含めて10冊の点字つき絵本が出版されました。会に参加している編集者が情熱を持っていても、点字つき絵本が出るまでには何年もかかります。問題を明らかにするため、コストや技術、販路などについて何年間か議論しました。しかし、なかなか次の出版に結びつきません。そんな中で、現状をまず把握して、見えない人が楽しめる絵本の情報を伝えようと、絵本を出版したことがある会社約90社にアンケート調査を

行って、作ったのが「点字つき絵本・さわる絵本リスト」(右下写真)です。さわる絵本は、一般に市販されているしかけ絵本の中で、見えない人も楽しめるものを加えました。

そのうちにやはり、本を作りたいということになり、点字つき絵本出版の動きが出てきたわけです。このリストを最初に作ったのが2006年で、2011年に出た3版が最新です。第3版には2013年2月に同時出版された『ノントンじどうしゃぶっぶー』(偕成社)、『こぐまちゃんどうぶつえん』(こぐま社)、『さわるめいろ』(小学館)、更に同年11月に、誕生50周年記念事業として出版された『ぐりとぐら』(福音館書店)が入っていません。そのため、ふれあい文庫の30周年にあわせて第4版を作ろうとしています。

また2015年には、3社くらいから復刊しよう、オリジナルをもう1冊作ろうといろいろな話が出ていますので、注目してください。点字つき絵本は時間をかけて



点字つき絵本さわる絵本リスト
<http://homepage1.nifty.com/fbunko/tenjihon/>



点字つき絵本

印刷段階で、透明な樹脂インクを使って、絵の形を盛り上げ、文字は点字でも表した出版物。



てんじつきさわるえほん

- 『さわるめいろ』村山純子 著 小学館 2013 <請求記号 Y11-L19>
- 『ノントンじどうしゃぶっぶー』キヨノサチコ 作・絵 偕成社 2013 <請求記号 Y11-L18>
- 『こぐまちゃんどうぶつえん』森比左志, わだよしおみ, 若山憲 著 こぐま社 2013 <請求記号 Y11-L126>
- 『ぐりとぐら』中川李枝子 さく 大村百合子 え 福音館書店 2013 <請求記号 Y11-L120>



増やしていくしかありませんが、特定の出版社が多く出すのではなく、出す出版社の数を増やしていかなくてはなりません。

点字つき絵本の出版物がもっと増えれば、私たちのてんやく絵本の活動の役割も終わると思いますが、当分はそうはいかないでしょう。私たちは隙間を埋めるという意味で、これからもてんやく絵本の数や内容を充実させて必要な人に届けていく必要があるでしょう。

図書館に望むこと

てんやく絵本がほとんどなかったとき、大阪市の中央図書館の児童室の職員が私の子どもたちに本を読んでくれました。約束した時間に子どもを連れていくと、親が読んでやるように子どもたちが気に入った本を図書館員が1時間くらい読んでくれたのです。読みたい本を読んでもらえることは、子どもにとって嬉しいことです。視覚障害者からそういう要望があれば、今後も細やかな対応をしていただければと思います。

目が見えない人で、ふれあい文庫やてんやく絵本、点字つき絵本のことを知らない人も多いと思います。必要な人に必要な情報が届かないことが、私たちにとって大きな壁となりますので、図書館を利用する人にそういう情報も提供していただけたらありがたいです。

ある点字図書館に寄った際にてんやく絵本の所蔵を尋ねたところ、利用者がいないから所蔵していないと回答されたことがあります。利用できる絵本がないから、視覚障害者とその図書館に行かないのです。それを利用者がいないと判断されるのは一番辛いことです。地域にはいろんな人がいて、その中には本を必要としている視覚障害者もいる。だから、点字つき絵本を図書館に置いてほしい。その願いをもって私たちは出版界に働きかけを行っています。限られた購入費の中で点字つき絵本を買うのは難しいという図書館の声も聞きますが、点字つき絵本は出ているタイトル数がまだ少ないのです。現在出ている点字つき絵本を図書館に置いていただくことで、見える人と見えない人が一緒にその絵本を楽しむ機会になります。

また、地元の点訳ボランティアと連携して、てんやく絵本を備えることも検討してほしいです。あの図書館に行けば点字もついた絵本もあるとわかれば、親子でくるかもしれません。親子が来ることによって、地域の人と触れ合う場も増え、見えない人が地域の中で孤立することを防げる場合もあるのです。

ご清聴ありがとうございました。



障害者サービス担当職員向け講座

国立国会図書館は毎年、国内の図書館員を対象に図書館における障害者サービスの基礎的な知識および技術の習得を目的とする障害者サービス担当職員向け講座を日本図書館協会と共催で開催しています。

開催のご案内、概要、過去の研修資料などは、NDLホームページでご覧いただけます。

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/index.html>

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

新たな世紀、新たなサービス

電子図書館へのあゆみ 日本点字図書館創立70周年記念誌

記念誌製作委員会 編 日本点字図書館 刊

2011.3 141p 30cm <請求記号 UL444-J7>

日本点字図書館は、1940（昭和15）年11月10日に「日本盲人図書館」という名称で開設されたことから始まる、歴史のある点字図書館です。本書は日本点字図書館の創立70周年記念誌で、主に『日本点字図書館50年史』以降20年（1991年から2010年）に行った事業が紹介されています。

巻頭には70周年式典をはじめとしたイベント等の写真があり、祝辞のページへと続いていきます。

創設者である本間一夫の個人蔵書から始まった点字の図書館が、現在は視覚に障害のある方のための情報提供施設として、点字図書・録音図書の製作や貸出しなど様々な活動に取り組んでいます。本間一夫は2003年に惜しまれながら亡くなりましたが、日本点字図書館ではその遺徳を伝えるために「本間一夫文化賞」を創設し、その人となりを偲ぶための「本間記念室」が館内に設けられています。本書には歴代の本間一夫文化賞の受賞者からの声と、本間記念室の様子が掲載されています。

現在の日本点字図書館の建物は、国の1993年度補正予算により建て替えられたものです。建物が国有財産であることも興味深いのですが、新しい建物が落成する1998年まで、様々な協力者の介在により業務が続けられていたことにも目を引かれます。

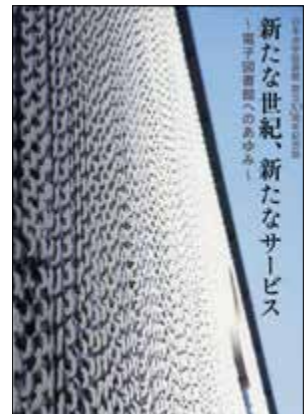
本書の中で最もページを割いているのが事業の変遷の部分です。本書で取り上げられている1991年から2010年というのは、パソコンやインターネッ

トの普及が進み、それを使った障害者への情報提供が進み始め、さらに著作権法の改正で障害者への情報提供に追い風があった時期です。ここでは日本点字図書館が新たな事業、中でもパソコンやインターネットを利用した事業に積極的に取り組んできたことが紹介されています。

2000年度にインターネットを使って点字・録音図書情報の提供を始め、2003年度にはWeb-OPAC（蔵書検索）を、2004年度には録音図書ネットワーク配信サービスを開始しています。手打ちで行っていた点字図書の製作は、パソコンでの製作を始めて3年で5割、10年でほとんどがパソコンでの製作に切り替わっています。録音図書の製作も、1999年にデイジー仕様のデジタル録音図書の製作を始めています。

現在、日本点字図書館では視覚障害者への情報提供だけでなく、障害者が使う道具の開発、生活を向上させるためのセミナーの開催、JIS規格に関わる調査事業、海外の視覚障害者を支援する事業といったような新たなサービスを展開しています。自身も視覚障害者であった本間一夫の、多くの盲人に幸せを与えたいという夢が、新たな世紀を迎え、様々な団体や個人とのつながりの中で、少しずつかなえられてきたことを紹介する本となっています。

（総務部人事課 大友 恒文）



テルミ

日本児童教育振興財団 発行 小学館（協力）

創刊準備号(1983.5), 1巻1号～ 隔月刊

<請求記号 YT111-51>

今回は本屋にない「本」ではなく、本屋にない「雑誌」、それも手で見る「児童雑誌」を紹介する。

『テルミ』は視覚障害児向けの点字の学習絵本雑誌である。昭和58(1983)年5月に創刊準備号が発行され、同年8月に部数3,000部、隔月刊で刊行された。平成14年時点の発行部数は800～1,200部とされている(『小学館の80年』による)。

本誌はクリーム色の紙に黒インクの活字(墨字)、その下に青い特殊な発泡インクによる点字が印刷されている。イラストも発泡インクで盛り上がり印刷されているので、視覚障害児も絵や図、迷路などを手で触って楽しむことができる。現在の定価は400円だが、発行にはその数倍の経費を要しているという。

創刊準備号に挿入されていた「<テルミ>創刊のお知らせ」(墨字・点字併記)には、「(1)幼稚園上級から小学校3年生ぐらいまでの盲児が主な読者対象。(2)盲児と父母・晴眼者が一緒に楽しめるように、活字と点字を並記。(3)盲児と晴眼児のコミュニケーションを活発にする内容。(4)発泡インクによる迷路遊びや絵さがしなど、楽しみながら触覚を訓練。(5)レーザーライター使用の準備段階となる触字訓練。(以下略)」などの特徴が書かれている。

表紙には季節や特集記事の内容などを表すイラストがえがかれ、続いて特集記事や知識のページ、迷路、昔話、折り紙、投稿コーナー、料理コーナーな

どで構成されている。知識のページには、算数や図形のクイズや世界の国々、乗り



物、宇宙、B級グルメ、オリンピック、藤子・F・不二雄ミュージアム、東日本大震災についての記事もあった。本誌は32ページの時代もあったが、現在は24ページ、毎号限られた紙面の中で、子どもたちの読みやすさと楽しさを考えてデザインされている。

増刊号として「イキモノズカン」(5巻5号)、「コンチュウズカン」(9巻5号)、「新きょうりゅうずかん」(32巻5号)などが発行されているほか、平成4年の創刊10周年記念号では英語版も発行された。

『テルミ』のホームページ*には、最新刊の全ページの画像がサンプルとして掲載されている。フリーダイヤルとパソコン向けの音声サービスで、最新号の内容についての詳しい情報を聞くこともできる。

国際子ども図書館の「子どものへや」では、最新2年分を開架している。調べ学習やボランティア活動の準備で、点字やバリアフリーの資料を探している子どもに紹介すると、「(点字と墨字が)両方書いてあるから、目の不自由な子と一緒に読んだり遊んだりできるね」という反応があるのも嬉しい。

(国際子ども図書館資料情報課 ^{みかた ひろこ}見形 宗子)

*「テルミ」ライブラリー . <http://www.faje.or.jp/terumi/index.html>

※購読に関するお問い合わせ先
日本児童教育振興財団 電話 03(5280)1501

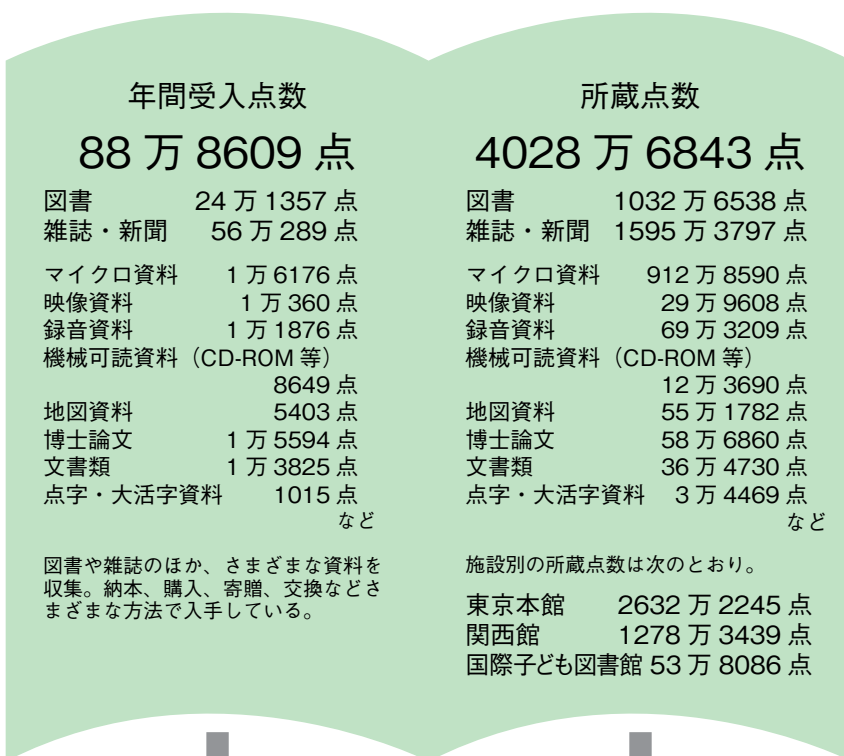
数字で見る国立国会図書館 『国立国会図書館年報 平成25年度』から



『国立国会図書館年報 平成25年度』

『国立国会図書館年報 平成25年度』をもとに、国立国会図書館の業務、サービス、組織に関するおもな数字を抜粋しました。
(総務部総務課)

※数字は平成25年3月31日現在



資料収集のための費用
約23億2500万円
うち、納入出版物代償金
約3億9000万円

館全体の予算・決算
歳出予算現額
約193億2000万円
決算額
約177億100万円
前年度からの繰越額約4億3500万円
次年度への繰越額約12億2500万円

職員数 890人
男性 50%
女性 50%
専門調査員・管理職のうち女性の割合
約30%

書誌データ作成 63万6493件
 図書 16万7912件
 雑誌・新聞 3177件
(データ更新(改題など) 1万135件)
 非図書資料 5万5948件
 雑誌記事索引 40万9456件
 書名、著者名、所在情報などの書誌データ、日本の出版物の記録である全国書誌を作成し、ホームページを通じて提供している。

媒体変換
デジタル化
4574点分
デジタル化等により媒体を変換し、原資料の代替として利用することにより、原資料の劣化を防ぐ。

	建物延べ面積	書庫面積	閲覧室面積
	21万5166㎡	10万4106㎡	2万4837㎡
東京本館	14万7853㎡	7万8046㎡	1万8983㎡
国会分館	1331㎡	609㎡	562㎡
関西館	5万9311㎡	2万3926㎡	4265㎡
国際子ども図書館	6671㎡	1525㎡	1027㎡

国会へのサービス 依頼調査回答 4万1267件

国会議員等からの依頼に基づき、国政課題や内外の諸事情に関する調査、法案の分析・評価などを行っている。

行政・司法支部図書館へのサービス 貸出8895点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に支部図書館が設置されている。この図書館ネットワークをもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

一般へのサービス 来館者67万246人

東京本館 50万5749人
関西館 6万3906人
国際子ども図書館 10万591人

開館日数は東京本館・関西館は278日、国際子ども図書館は285日。

閲覧 218万3652点

東京本館 205万4008点
関西館 10万6853点
国際子ども図書館2万2791点

来館して申し込む閲覧サービス。

レファレンス・サービス 90万6186件

東京本館 82万9947件
関西館 6万780件
国際子ども図書館 1万5459件

口頭、文書、電話により回答する。

見学・参観 8405人

東京本館 3435人
関西館 1987人
国際子ども図書館 2983人

見学の申し込みは本誌表紙裏参照。

来館複写申込 114万4357件

東京本館 104万1025件
関西館 9万7932件
国際子ども図書館 5400件

来館して申し込む複写サービス。

図書館等への貸出 2万1750点

東京本館 6330点
関西館 2895点
国際子ども図書館 1万2525点

図書館への貸出し、小中学生向けの学校図書館セット貸出し、展示会に出品するための貸出しがある。

遠隔複写申込 25万4115件

東京本館 13万69件
関西館 12万2892件
国際子ども図書館 1154件

来館せずに、ホームページ等を通じて申し込む複写サービス。

デジタル化資料の提供数

インターネット 48万3594点
館内限定 188万9176点
図書館送信 約131万点

江戸期以前の和漢書や、1968年までに刊行された図書等の本文デジタル画像。

ホームページへのアクセス 2076万7260件 1日平均5万6897件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等の各種データベース、調べものに役立つ情報などが利用できる。

国立国会図書館サーチで 統合検索できる書誌データ 7795万5454件

98種類のデータベース

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された画像・音声等の様々な形態の情報を検索。

『国立国会図書館年報』は、ホームページでもご覧になれます。

国立国会図書館ホームページ
> 刊行物 > 国立国会図書館年報
<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

おもな人事

<異動>

※ () 内は前職

平成27年1月2日付け

専門調査員 調査及び立法考査局社会労働調査室付

(会計検査院第3局長)

堀部 貢

平成26年度

国立国会図書館長と 行政・司法各部門支部 図書館長との懇談会



平成26年12月1日、東京本館において標記の懇談会を開催した。これは、各府省庁および最高裁判所に置かれた支部図書館の充実に資するため、支部図書館長等を招いて毎年行っているものである。

国立国会図書館（中央館）から、中央館のこの1年の状況について、「支部図書館との連携」「電子図書館サービスの進展」「東日本大震災からの復興に関する取組」「文化庁との協定」「国内外の図書館等との連携」「今後の発展に向けて」の6点を中心に報告を行った。

支部図書館からは、桐原健郎支部内閣府図書館長が、同館の歴史と現状および平成26年8月の移転・統合について、松下達也支部特許庁図書館長が、同館の沿革、所蔵資料と利用状況および最近のトピックスについて報告した。

また、植村八潮氏（専修大学文学部教授）が、「電子書籍・雑誌の現状と図書館に示唆するもの」と題し、特別講演を行った。

平成26年度

国立国会図書館長と 大学図書館長との 懇談会



平成26年12月10日、東京本館において標記の懇談会を実施した。これは、国立国会図書館が、国公私立大学図書館協力委員会委員館の図書館長および関係機関の代表者を招いて毎年行っているものである。

今年は、当館による「国立国会図書館と大学図書館との連絡会」の活動報告の後、「外国雑誌の収集・保存・提供」をテーマとした報告が行われた。利用者サービス部長からは「国立国会図書館の外国雑誌の収集・利用提供体制—科学技術分野を中心に—」、中山伸一筑波大学附属図書館長からは「ジャーナル問題と学術情報流通を巡る最近の動き」と題した報告があった。その後、学術情報のオープンアクセスの意義と推進の在り方、ナショナルサイトライセンスの可能性、英語による学術情報発信の必要性、大学における当館の遠隔複写サービスの利用などについて、質疑、意見交換が行われた。

中国国家図書館との 第33回業務交流



平成26年11月18日から25日にかけて、中国国家図書館（北京）において標記の業務交流が行われた。国立国会図書館からは、中山正樹専門調査員・総務部司書監事務取扱はじめ5名からなる代表団が参加した。

交流中はテーマ別に三つのセッションが設けられ、それぞれ両館からの詳細な報告に続き、質疑応答と意見交換が活発に行われた。

「デジタル時代の国立図書館の活動」をテーマとするセッションでは、国立国会図書館から、電子図書館事業20年の歩みを振り返った上で、我が国の知識インフラ構築の一翼を担うべく、文化財を含めたナショナルアーカイブ構想など、今後10年で目指すところについて報告した。中国国家図書館からは、典籍博物館建設をはじめとする本館南区改修に伴う新しい利用者サービスの展開、電子図書館サービスの現況、電子図書館推進プロジェクトなど国家規模の図書館協力事業について報告があった。

「デジタル時代における図書館協力事業」をテーマとした二つ目のセッションでは、当館から、図書館間貸出（ILL）やレファレンスサービス、デジタル化資料の図書館送信、研修交流事業、障害者図書館協力事業、総合目録ネットワーク事業など、図書館協力事業全般について報告した。中国側からは、図書館協力事業の一例として、第12次5か年計画（2011 - 2015）における国家プロジェクトの一つとして推進されている、電子図書館推進プロジェクトの進捗状況について詳細な報告があった。

最後の「図書館の文化・広報活動」をテーマとするセッションでは、当館から、東京本館・関西館・国際子ども図書館それぞれで実施している展示会、電子展示会、講演会など各種イベントや様々な媒体を使った広報について報告した。中国側からは、「中国の記憶」プロジェクトを例に、中国国家図書館ウェブサイトでの情報提供、動画の作成や関連文献の出版、展示会、体験型イベントや公開講座の実施について報告があった。

日中両国の国立図書館は、今まで電子図書館事業など、同じ方向性でお互いの施策を参考にしながら推進してきており、共通の課題も多く存在する。今後も、業務交流を通じて情報交換を継続していくことが、双方にとって有益であることを相互に再確認した。

お知らせ

■ 国際政策セミナー 「国会による行政統制— ドイツの『議会留保』を めぐる憲法理論と実務」



クリスティアン・ヴァルトホフ氏



昨年の国際政策セミナーの様子

調査及び立法考査局は、「国会による行政統制—ドイツの『議会留保』をめぐる憲法理論と実務」をテーマに国際政策セミナーを開催します。

基調講演者は、ドイツの代表的な公法学者の一人であり、議会の実務にも詳しいクリスティアン・ヴァルトホフ氏です。重要な国政事項の決定には個別に議会の承認を必要とする「議会留保」の考え方と、その実務に与える影響等について、お話しいたします。講演後は、行政法学、憲法学の専門家が加わり、パネルディスカッションを行います。皆様のご参加をお待ちしております。

○日 時 2月19日(木) 14:00～17:00

○会 場 東京本館 新館講堂(定員300名)

○プログラム (同時通訳付き、入場無料)

・基調講演 クリスティアン・ヴァルトホフ氏 (Prof. Dr. Christian Waldhoff)
(ベルリン・フンボルト大学法学部教授)

・パネルディスカッション

パネリスト 原田 大樹 氏 (京都大学大学院法学研究科教授)

(発言順) 高田 篤 氏 (大阪大学大学院法学研究科教授)

コーディネーター 棟居 快行 (当館専門調査員、

調査及び立法考査局政治議会調査室主任)

○申込方法

ホームページの参加申込みフォームから2月15日(日)までにお申し込みください。定員に達した時点で受付を終了します。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) > イベント・展示会情報 > 国際政策セミナー(講演会)「国会による行政統制—ドイツの『議会留保』をめぐる憲法理論と実務」

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/ipsbunken2014.html>

または、①講演会名(「国際政策セミナー」)、②氏名(ふりがな)、③所属機関等、④電話またはFAX番号を明記の上、FAXでお申し込みください。

○申込み・問合せ先

国立国会図書館 調査及び立法考査局 調査企画課 連携協力室(担当:芦田・河合)

FAX 03(3581)2603 電話 03(3581)2331(代表)

お知らせ

■ 「国会会議録検索システム」 の機能追加について

国立国会図書館は、衆議院・参議院と共同で、第1回国会（昭和22年5月）以降の国会会議録を検索・閲覧することができるデータベース「国会会議録検索システム」を提供しています。

平成26年12月22日に、「国会会議録検索システム」の機能追加を行いました。



（「国会会議録検索システム」トップ画面）

今回の機能追加により、以下3点について改善・強化しています。

- ① 検索レスポンスの向上：第1回国会以降の全期間を指定したキーワード検索において、これまでより快適な速さで検索結果が表示されます。
- ② PDF形式での画像ファイルの提供：本システムに収録されている全ての会議録（本編及び追録・附録・目次・索引）について、これまでのTIFF画像に比べて、扱いが容易なPDF画像を追加しました。
- ③ 検索用APIの追加：検索用の公開API*の機能を新規に追加しました。発言単位・会議単位での利用が可能です。

*API：Application Programming Interface システムの提供する機能を外部の別のプログラムから呼び出して利用するための仕組み

ぜひご活用ください。

- 「国会会議録検索システム」 URL <http://kokkai.ndl.go.jp/>



お知らせ

■ 第3回国連防災世界会議 パブリック・フォーラム (関連事業) 防災・復興 に関する展示「国立国会 図書館東日本大震災アー カイブ(愛称:ひなぎく)」

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議です。平成6年に第1回会議が横浜市で、平成17年に第2回会議が神戸市で開催されました。本年3月、第3回会議が東日本大震災の被災地である仙台市で開催されます (<http://www.bosai-sendai.jp/>)。

国立国会図書館は、同会議の関連事業として実施される防災・復興に関する展示に参加し、東日本大震災に関する音声・動画、写真、ウェブ情報等を包括的に検索できるポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」を紹介するブースを出展します。

皆様のご来場をお待ちしています。

展示期間	3月14日(土)～3月18日(水)
展示時間	10:00～20:00
会場	せんだいメディアテーク5・6階ギャラリー (〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1)
入場	無料

○関連行事のご案内

ブース展示と同じ期間に、ポスター展示も行います(ポスター展示のみ最終日は10:00～15:00)。

会場 東京エレクトロンホール宮城501・502展示室

(〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3-3-7)

ブース展示、ポスター展示の詳細については、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ (<http://kn.ndl.go.jp/information/346>) をご覧ください。

○問合せ先

国立国会図書館 電子情報部 電子情報流通課 東日本大震災アーカイブ担当

電話 03(3581)2331 (代表)



国立国会図書館は第3回国連防災世界会議を支援しています。

お知らせ

■ 平成26年度の 利用者アンケートの 結果を公表しました

国立国会図書館では、利用者の多様なニーズを把握するため、来館利用者に対するアンケートと遠隔利用者（来館せずに利用できる各種サービスの利用者）に対するアンケートを、毎年交互に実施しています。

平成26年度は、遠隔利用者に対するアンケートを実施しました。アンケートの調査対象、実施期間等は下表のとおりです。アンケート結果の詳細は、ホームページで公表しています。ご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げるとともに、この結果を当館の評価制度（活動実績評価）に活かし、サービスや業務を改善してまいります。

種別	調査対象	実施期間	有効回答数	送付数(館)	回収率(%)
国立国会図書館ホームページアンケート*1	遠隔利用者(個人)	6/23～9/26	847	—	—
図書館アンケート*2	国内図書館・関係機関	7/17～8/18	974	1,284	75.9

*1 ホームページにアンケート入力フォームを用意し、回答者が画面上で回答できるようにした。

*2 平成26年3月から4月にかけて当館が複写製品の発送を行った機関に加え、都道府県立図書館およびISIL(図書館及び関連組織のための国際標準識別子)登録機関から追加して送付先とし、アンケート用紙を郵送した。

○URL http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/enquete/enquete2014_01.html

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国立国会図書館について>利用者アンケート

>平成26年度遠隔利用者アンケート結果

お知らせ

■ 関西館小展示

(第17回)

「明日のレシピはフルコース ー作りたい味を見つけようー」



「素人庖丁：即席料理 下」
赤志忠雅堂，明26
【請求記号 特41-858】



「食パンの製法及び衛生菓子の拵へ方」
木村屋主人 著 日野三郎，明39
【請求記号 特26-785】



「惣菜料理のおけいこ」
嘉悦孝子 著 宝永館，明40
【請求記号 特23-197】

第17回の関西館小展示は「明日のレシピはフルコースー作りたい味を見つけようー」と題して、定番メニューから、和食、各国料理、明治・大正・昭和初期の料理書など、関西館が所蔵する料理書を約570冊、展示します。アジア関係資料を多く所蔵する関西館ならではの展示として、アジア諸国のレシピも充実しています。

刊行年の古い一部の資料を除いて、およそ550冊は手に取って読むことができます。読んで楽しい、作っておいしい。作りたい味を見つけにぜひ関西館にお越しください。

- 開催期間 1月22日(木)～3月17日(火)
(日曜日、国民の祝日、2月18日(水)を除く)
- 開催時間 10:00～18:00
- 場 所 関西館 地下1階閲覧室
- 入 場 無料

また、関連イベントとして、講演会を開催します。奮ってご参加ください。

- 演 題 「お皿の上の近代史 ～明治・大正期の料理書をよみとく～」
- 概 要 幕末の開国とともに受容された西洋食文化は、それまでの日本の食生活を一変させました。「異国の味」が徐々に日本の生活文化の中に溶け込んでいくと同時に、西洋からの新しい食材や調理法を日本に根付かせようと立ち上がった先人たちによって、多くの料理書が刊行され、「バラエティ」豊かな日本の家庭料理が誕生するきっかけになりました。明治・大正期の料理書を紐解きながら、異国の食文化と向き合い、試行錯誤を繰り返した日本人のドラマをご紹介します。
- 講 師 ひがしよつやなぎ 東四柳 祥子 氏 (梅花女子大学食文化学部講師)
- 日 時 3月14日(土) 14:00～16:00
- 会 場 関西館 第1研修室
- 定 員 70名 ※定員に達し次第受付を終了します。
- 入 場 無料
- 申込方法 次の事項を記載の上、電子メールまたはFAXでお申込みください。
 - ①件名「小展示講演会申込み」、②氏名(よみがな)、③電話番号(日中のご連絡先)、④FAX番号(FAXでお申込みの場合のみ)電子メール k-tenji@ndl.go.jp FAX 0774 (94) 9106



お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「子どもを健やかに育てる本 2014—厚生労働省社会保障 審議会推薦児童福祉文化財 (出版物)」

1月27日(火)から、展示会「子どもを健やかに育てる本2014—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財(出版物)」を厚生労働省との共催で開催します。この展示会では、児童の福祉の向上、子どもたちの健やかな育ちに役立てることを目的として厚生労働省社会保障審議会が推薦した絵本や図書61タイトルを手にとってご覧いただくことができます。

幼児向けの絵本から高校生以上も楽しめる図書まで、また、物語からノンフィクションまで、幅広い分野の本を展示しており、子どもの成長段階に合った本に出会うことができます。

ぜひご来場ください。

- | | |
|-------|--|
| ○開催期間 | 1月27日(火)～2月22日(日)
※月曜日、国民の祝日、2月18日(水)を除く。 |
| ○開催時間 | 9:30～17:00 |
| ○会場 | 国際子ども図書館3階ホール |
| ○入場 | 無料 |

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課
電話 03(3827)2053 (代表)





お知らせ

■ 子どものための絵本と 音楽の会

国際子ども図書館では、東京・春・音楽祭実行委員会との共催で、「子どものための絵本と音楽の会」を開催します。ヴァイオリンとチェロの演奏にあわせて、クロケット・ジョンソン作の絵本『はろると まほうの く に へ』の朗読を楽しむ会です。入場は無料です。

○日 時 3月22日（日）13：30～、15：00～（各回約30分）

○会 場 国際子ども図書館3階ホール

○対 象 3歳から中学生までの子どもおよびその保護者

*原則として子ども1名につき保護者1名

○定 員 各回100名程度

*申込多数の場合は抽選。当落にかかわらず3月13日（金）までにご連絡します。

○申込方法

次の事項を明記の上、往復はがきまたはホームページの申込フォームにより、2月28日（土）までにお申し込みください（必着）。

*申込フォームは東京・春・音楽祭ホームページに掲載されています。

①参加希望時間、②参加人数（保護者含む）、③参加者全員の氏名および子どもの年齢、④住所、⑤電話・FAX番号

○申込み・問合せ先

東京・春・音楽祭実行委員会「絵本と音楽の会」係

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム15F

ホームページURL <http://www.tokyo-harusai.com/>

電話 03(5205)6497

お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第262号 A4 191頁

季刊 1,800円(税別) 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-768-9)

<主要立法(翻訳・解説)>

アメリカの2006年改訂統一死体提供法

EUにおける欧州国境監視システムの創設

ドイツの新しい放送負担金制度—インターネット時代の受信料制度—

ドイツにおける2014年再生可能エネルギー法の制定

ロシアにおける情報安全保障政策とインターネット規制

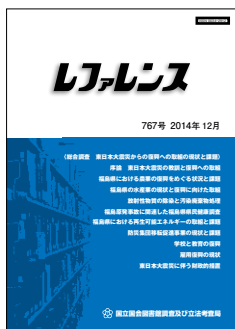
韓国の失踪児童法

中国の環境保護法改正

ベトナム2013年制定雇用法—2015年から施行される雇用政策の内容—

<主要立法(解説)>

アメリカにおける電子たばこ規制



レファレンス 767号 A4 209頁 月刊 1,000円(税別) 発売 日本図書館協会

<総合調査: 東日本大震災からの復興への取組の現状と課題>

序論 東日本大震災の教訓と復興への取組

福島県における農業の復興をめぐる状況と課題

福島県の水産物の現状と復興に向けた取組—水産物のモニタリング検査と試験操業—

放射性物質の除染と汚染廃棄物処理

福島原発事故に関連した福島県民健康調査

福島県における再生可能エネルギーの取組と課題

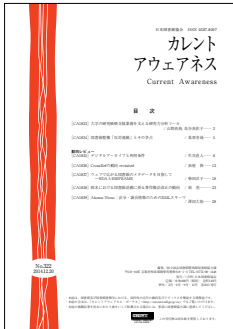
防災集団移転促進事業の現状と課題

学校と教育の復興

雇用復興の現状—被災者自身の手による雇用復興に注目して—

東日本大震災に伴う財政的措置

お知らせ



カレントアウェアネス 322号 A4 32頁 季刊 400円(税別) 発売 日本図書館協会
大学の研究戦略支援業務を支える研究力分析ツール

図書館整備「反対運動」とその争点

<動向レビュー>

デジタルアーカイブと利用条件

CrossRefの動向 revisited

ウェブで広がる図書館のメタデータを目指して—RDAとBIBFRAME

欧米における図書館活動に係る著作権法改正の動向

Akoma Ntoso：法令・議会情報のためのXMLスキーマ

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

CONTENTS

- 02 New Year Greetings for 2015: To prove worthy of trust
- 04 <Book of the month - from NDL collections>
Odori hitori geiko : Textbook of dance drawn by Hokusai
- 06 Focus: NDL's Services for people with disabilities
- 08 Making and providing audio recordings of academic literature
- 11 National Union Catalog of Braille & Recorded Books in Japan and the NDL search
- 12 Collecting and transmitting data for the visually disabled and other users
- 14 Introductions of materials for people with visual disabilities
- 16 National Library Service for the Blind and Physically Handicapped (NLS) at the Library of Congress
- 18 Service of the National Library of Korea for individuals with disabilities
- 20 *Tenyaku ehon fureai bunko* (Library of Braille Picture Books) 30 years of effort: Braille picture books and expectations for libraries
- 28 The NDL in figures: from the Annual Report of the NDL, FY2013
- 10 <Tidbits of information on NDL>
Talking books: Making academic literature available in sound
- 26 <Books not commercially available>
○ *Aratana seiki, aratana sabisu: Denshi toshokan e no ayumi: Nihon tenji toshokan sōritsu 70shūnen kinenshi*
○ *Terumi*
- 30 <NDL News>
○ Changes in personnel
○ Annual meeting between the Librarian of the NDL and the Directors of the Branch Libraries in the Executive and Judicial Branches of the Government FY2014
○ FY2014 meeting between the Librarian of the NDL and directors of university libraries
○ 33rd mutual visit program with the National Library of China
- 32 <Announcements>
○ International Policy Seminar: Parliamentary control over governmental activities - parliamentary reservation (Parlamentsvorbehalt) in Germany
○ Newly added functions to the Full-Text Database System for the Minutes of the Diet
○ Exhibitions at the public forum of the 3rd UN World Conference on Disaster Risk Reduction: NDL Great East Japan Earthquake Archive "HINAGIKU"
○ Results of the user questionnaire survey FY 2014 now open to the public
○ Small exhibition in the Kansai-kan (17) "Tomorrow's dinner will be a full-course meal: Find the recipe you want to cook"
○ Exhibition at the International Library of Children's Literature "Books for healthy growth of children 2014: Cultural Materials (publications) of Child Welfare Recommended by the Social Security Council of the Ministry of Health, Labour and Welfare"
○ Spring event of the International Library of Children's Literature "Picture books and music for children"
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 27 年 1 月号 (No.646)

平成 27 年 1 月 20 日発行 定価 540 円
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館

編集責任者 小寺 正一

〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp発売 公益社団法人日本図書館協会
〒 104-0033 東京都中央区新川 1-11-14
電話 03 (3523) 0812 (販売)
F A X 03 (3523) 0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社 ブルーホップ

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「千代田の大奥 鏡餅曳」
楊洲周延[画] 福田初次郎 明治28（1895）
錦絵（35.1×23.5cm）3枚続き
（『千代田の大奥』＜請求記号 寄別8-5-2-1＞所収）

国立国会図書館月報

平成27年1月20日発行（毎月1回20日発行）
（1月号通巻646号）

発売：公益社団法人 日本図書館協会 定価540円（本体500円）